

令和 2 年度事業報告書 – グループホーム白楽荘みくにの里 –

テ – マ : 自立した生活が送れるように、より良いチームケアの提供と地域支援体制の強化を図る

サブテーマ : 地域の中で共に暮らし、安心・安楽を実感して生活が継続できるよう援助する

1. 利用者の心身機能に応じた支援を提供することで、自立した生活が送ることができる 家族や地域との交流により、活気あるグループでの生活支援の活動につなげる。

- ① 年間を通して感染予防対策を徹底、コロナ禍の中でホーム内での季節感あるレクリエーションや、余暇活動の充実を図ることを意識した。
- ② 毎月、家族便りを送付し近況報告を行う。また希望される家族様には写真動画をライン配信。電話での会話や面会予約を実施することで、家族との関係を保つことを重視した。
- ③ 外出自粛が続く中で、状況に応じ定期的に近隣へのドライブを実施したが、地域住民と交流に取り組むことはできなかった。

2. 人としての尊厳を重視したケア

ケアプランに基づいて、尊厳が守れる認知症ケアを提供する。

- ① 個々の機能に応じて、身体面・認知機能の残存能力を発揮できる家事などの、生活支援の活動サービスを提供した。
- ② みくにの森クリニックとの連携、日常生活の中で健康管理に努めると共に、感染対策を継続することで、入居者・職員が新型コロナに感染することなく過ごすことができた。

3. 人材を育成し、働きやすい職場づくりを目指します

研修やカンファレンス・会議等を通し、認知症ケアの知識・機能を深め、チームケアを効果的に機能させる。

- ① 法人内・外部研修が困難な状況の中で、オンライン研修に取り組むことで知識向上を図った。
- ② 毎月のグループホーム会議の中で、議題を定め、認知症ケアへの理解を図ることができた。
- ③ 事務所内にチーム目標を掲示することで、日頃の業務中での意識を継続することができた。
- ④ 年度末に個別面談を実施。個人の悩みや思いを共感することでチーム内の人間関係を築いた。